



島教協

《すべては「子供たちのために」》

情報

http://
www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 石原康博 編集人 吉田 修 No.615



教育シンポジウム島根 開催



子供を育てるための縁づくり 〜出雲に集った神々からの提言〜

十一月二十九日(日) 大社文化プレイス「うらら館」において、教育シンポジウム島根が開催された。全国から三百名の会員を迎え、県内会員、一般、来賓を合わせ、約四百名が集い、四名の登壇者によって展開された熱い議論に聞き入った。

シンポジウムは学校・家庭・地域を結ぶ縁をキーワードにして進んだ。冒頭、森所長は「教育は人間と人間の営み。だから縁が大切であり、それは出会いでできる。その運命を使命に変えねばならない。」と柳生家の家訓を紹介しながら話された。

柳生家訓

小才は出会う縁にきづかず
中才は縁を活かさず
大才は袖ふれ合う縁をも活かす

そして、人生最初の出会いの相手「親」の教育を確かなものとするために、それぞれの家庭で「家訓(我が家のマニフェスト)」を作ることを提案された。

続いて各パネリストからの提言があり、その後はパネリスト同士での議論や、会場からの質問に答える形で進んだ。個性豊かなパネリストの意見と、森所長の豊富な話題と軽妙なコーディネートで、約三時間があっという間に過ぎ、様々な角度からこれからの教育について考えることができた。

家庭の機能が果たされているか考える必要がある。教育基本法が改正され、「保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」と書かれた。この精神を暮らしの中に生かし、今こそよその子も叱り、腹を割って話し合える環境づくりを。



近大姫路大学教育学部長 辻村哲夫氏

率先垂範がキーワード、人間関係については、親と子は「鏡と鑑の関係、だから家訓が必要、学校では「先生徒の関係」校訓が大事、地域社会では「我以外人皆教師の関係」社訓の出番。家庭で「芽」が出て、学校で「花」が咲き、世間で「実」になる。



日本教育文化研究所所長 森 隆夫氏



FM山陰 パーソナリティ 小片悦子氏

言葉は言霊。言葉から伝わる空気、自分が出す空気がある。子育ては大変だが、自分がぶれないで信念を持っていけば子どもは必ずついていく。とにかく笑顔でいい言葉いい空気を出していきたい。



日本箸文化協会代表 小倉朋子氏

箸は元は神へのお供えものをするときに使う道具。箸に精神性を持たせているのは箸文化のある国々の中で日本だけ。食にきちんと向き合い、感謝することがモラルにつながる。好き嫌いは食との出会いを狭め、それを許すことは、ひいては仕事や人との出会いをも狭めることにつながる。

教育シンポジウム島根 島根からの発信



島根県教育文化研究所
石原康博所長

なきやいけないときがある。大きな声で褒めなきやいけないときがある。このシンポジウムが学校・家庭・地域をつなぐ縁となれば幸いだ。」とお礼の挨拶をして、このシンポジウムを締めくくった。

この出雲の地で正に神はかりをしているこの時期に我々も集って、学校・家庭・地域の協力について、その継続的な取組のための具体的方策を考えることは意義深い。少しでも早くスクラムを組んで、子ども達に、「大切にしているよ。」というメッセージを送りたい。」と挨拶をした。

また、閉会にあたって開催県、主管団体を代表して、石原康博所長が、プロのマッサージ師の言葉を紹介しながら「日々変化する教育環境を何とかしたいと感じている方は多い。大切なのは私たち大人が子ども達のためにどれだけやれたかである。教職員として、一人の子どもの親として、一人の大人として、子どもの健やかな成長を願うなら、本気で叱らなきやいけないときがある。大きな声で褒めなきやいけないときがある。このシンポジウムが学校・家庭・地域をつなぐ縁となれば幸いだ。」とお礼の挨拶をして、このシンポジウムを締めくくった。



日本教育文化研究所
久保井規文理事長

教育シンポジウム島根の開催にあたり、久保井規文理事長は、「日本教育文化研究所は『美しい日本人の心を育てる教育の創造』を目指し、日本の未来を担う子ども達へ正しい教育を行うために活動しており、多くの教育機関から高い評価を得ている。

教育シンポジウム島根 記念レセプション



閉会の挨拶をする武田幸雄
日本教育文化研究所副理事長

途中アトラクションとして「さだ須佐太鼓」が披露された。その力強く迫力のある動きと響きに参加者は釘付けとなった。



さだ須佐太鼓

佐々木雄三様、出雲市教育委員会教育次長 吉田純二様、斐川町教育委員会教育長 青木充之様をはじめ、たくさんの方々の来賓、招待者の方々を迎え、盛大に行われ、全国の仲間と交流を深め合うことができた。



台北駐日経済文化代表所
斯吉甫文化部部长

孝様、島根県議会議員 木村保、島根県教育委員会教育次長 吉田純二様、斐川町教育委員会教育長 青木充之様をはじめ、たくさんの方々の来賓、招待者の方々を迎え、盛大に行われ、全国の仲間と交流を深め合うことができた。



島根県教育文化研究所
佐野美保副所長

十一月二十八日(土)、教育シンポジウム島根の開催に先立って、記念レセプションがラピタウエディングパレスにて行われた。

開会にあたり、佐野美保副所長が、「この出雲地方は旧暦十月を神無月とは呼ばず、神在月と申します。それはこの時に、全国の八百万の神々が出雲大社にお集まりになるからです。先日二十六日夕刻に神々を迎える神事が行われ、今まさに、全国の神々が出雲大社で縁結びの話し合いをされている時、奇しくも全国の皆様とこのように会しますことは、何やら不思議なご縁を感じます。」と歓迎の言葉を述べた。

レセプションには台北駐日経済文化代表所文化部部长 斯吉甫様、島根県教育庁教育監 木村保様、島根県議会議員 木村保様、島根県教育委員会教育次長 吉田純二様、斐川町教育委員会教育長 青木充之様をはじめ、たくさんの方々の来賓、招待者の方々を迎え、盛大に行われ、全国の仲間と交流を深め合うことができた。